

AIで養蜂業者支援

アドダイス
がシステム 巣箱内温・湿度管理

アドダイス（東京都 7788）は養蜂業者向けに、人工知能（AI）とIoT（モノのインターネット）を利用した支援システム「ビー・センシング」を発売した。



巣箱内の温度や湿度をセンサーで計測し、遠隔地からスマートフォンなどでミツバチの状態を把握できる

巣箱内の温度や湿度をセンサーで計測し、遠く離れた環境でミツバチの群れの健康状態を把握できるほか、AIの数値データ蓄積で収量アップ効果も期待できる。省力化の武器として売り込む。

初期投資が30万円、他

クラウド型のAIを通じた管理費などで月3万円が必要。ミツバチの巣箱にセンサーを取り付け、巣箱内の温度湿度データなどをスマートフォンアプリでシミュレーション（応用ソフト）へ送信する。

養蜂業者はハチミツの回収や定期点検時だけ巣箱に行く。かつ巣箱は中の様子が見えにくい。高温や病気などでハチの数が減ると養蜂業者の減収要因になる。また、ハチは一定の期間で新たな群れが巣箱を離れるため、数

が半減したなどの事態もある。システムはこれらの予測にも役立つ。巣箱破壊や盗難もチェックできる。複数の養蜂場や巣箱を同時に管理できるため、効率的な対応が可能になり、不要な外出も減らせる。過去の作業内容と蜂群の状況データを蓄積できるの